

月や地球、星々の写真に癒される体感型写真展、日本橋で開催！

2015年3月

遠藤湖舟 写真展 *Koshu ENDO*

「天空の美、地上の美。」-見つめることで「美」は姿を現す-

3月25日(水)～4月5日(日) 日本橋高島屋 8階ホール

3月25日(水)午前11時、上村愛子氏(元女子モーグル日本代表)と遠藤湖舟氏とのトークショー開催

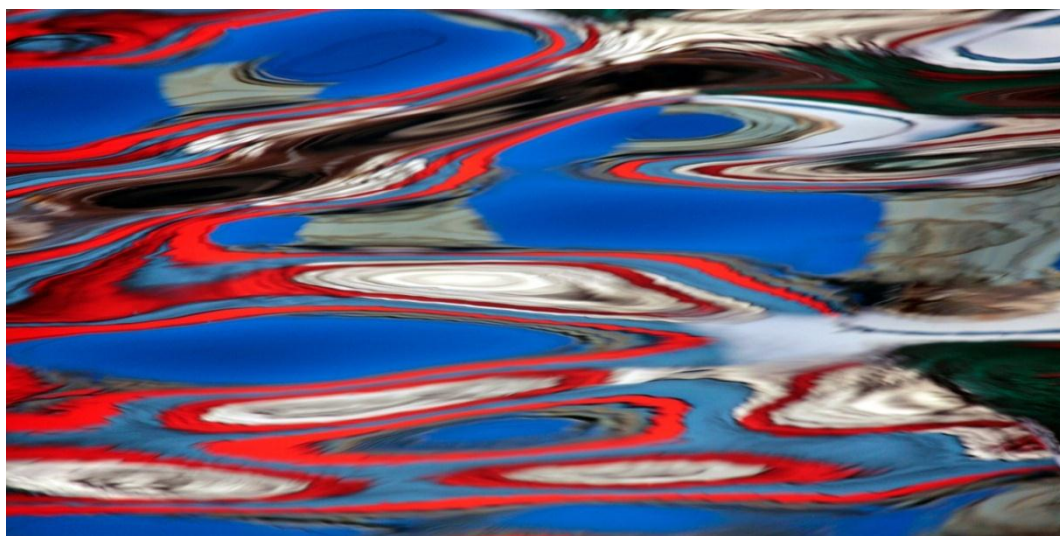
※都合により、出演者が変更になる場合がございます

主催:読売新聞社 企画協力:株式会社ブレインズ・カンパニー

入場料:一般800円、大学・高校生600円、中学生以下無料

入場時間:午前10時～午後7時30分(午後8時閉場)、最終日は午後5時30分まで(午後6時閉場)

[巡回情報(予定)] 4月8日(水)～4月20日(月) 京都高島屋7階グランドホール  
5月8日(金)～5月18日(月) 大阪高島屋7階グランドホール  
7月29日(水)～8月10日(月) 横浜高島屋ギャラリー<8階>



<ゆらぎ>シリーズ  
「波光 I」

## あなたは空を見あげていますか？ あなたは地上を見つめていますか？

2015年3月25日(水)～4月5日(日)日本橋高島屋にて、遠藤湖舟 写真展「天空の美、地上の美。-見つめることで「美」は姿を現す-」を開催いたします。天空から地上に至るまで、壮大かつ繊細な“美”を写真という技法で表現。会場では、星々から身近な美までを見つめ撮影した作品約130点を大型アクリルボード(高さ1.8m/幅1.2m)や大判プリント作品(高さ1.5m/幅2.2m)や、屏風、掛け軸、映像などさまざまな手法で立体的に表現し、ご覧いただけます。

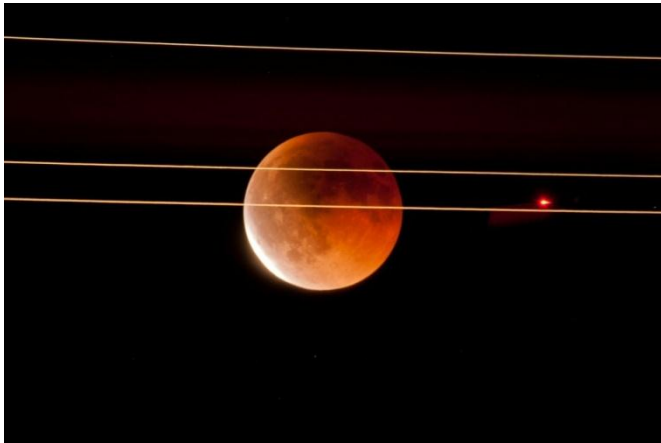
日々刻々と変わる自然を絶えず見つめることで、身近な日常に存在する“美”の瞬間をすくい取ろうとする写真家、遠藤湖舟氏。とくに風に揺れる水面に現れた一瞬の“美”を捉えた<ゆらぎ>シリーズは、遠藤氏の代表作といえます。また、作品のほとんどは東京やその近郊で撮影されており、ほんの少し立ち止まり見つめれば、“美”が身近なところにあふれていることに気づかされます。

「宇宙をうけとめる」



## 第一楽章 月

地球のこんなに近くに星が浮かんでいるなんて、これは奇跡。最も身近な天体、月。地球から見る月は休みなく姿を変え、時には雲と戯れる。



「皆既光跡」

## 第二楽章 太陽

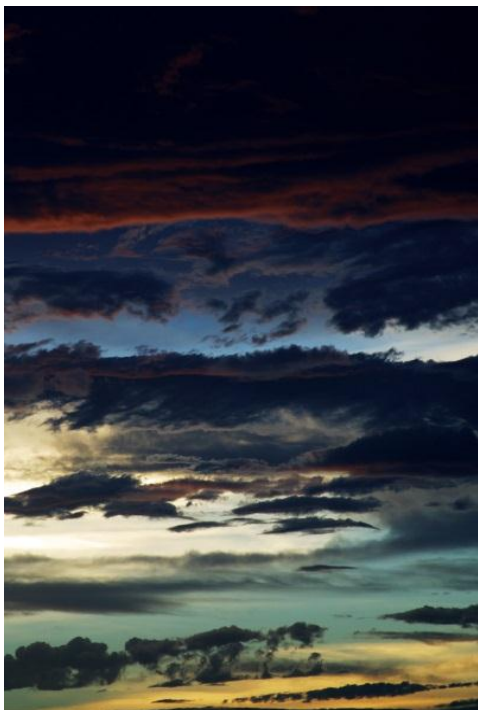
太陽の色は白。それが朝と夕に黄や赤に色づく。その色が空や雲を染めて、私たちの心を高揚させるのだ。



「凍れる太陽」

## 第三楽章 空

空に展開される色彩の素晴らしさを見ないなんて、人生の喜びの多くを逃していることと同等だ。いつだっていい、ちょっとでもいい、空を見上げてみようではないか。



「天空の色彩」

## 第四楽章 星

都会の光が夜空を浸食して、星を見る機会を遠ざけてしまった。でも星がなくなったわけではない。幾千億の星の光は、いつだって私たちに降り注いでいる。



「昇る金星」



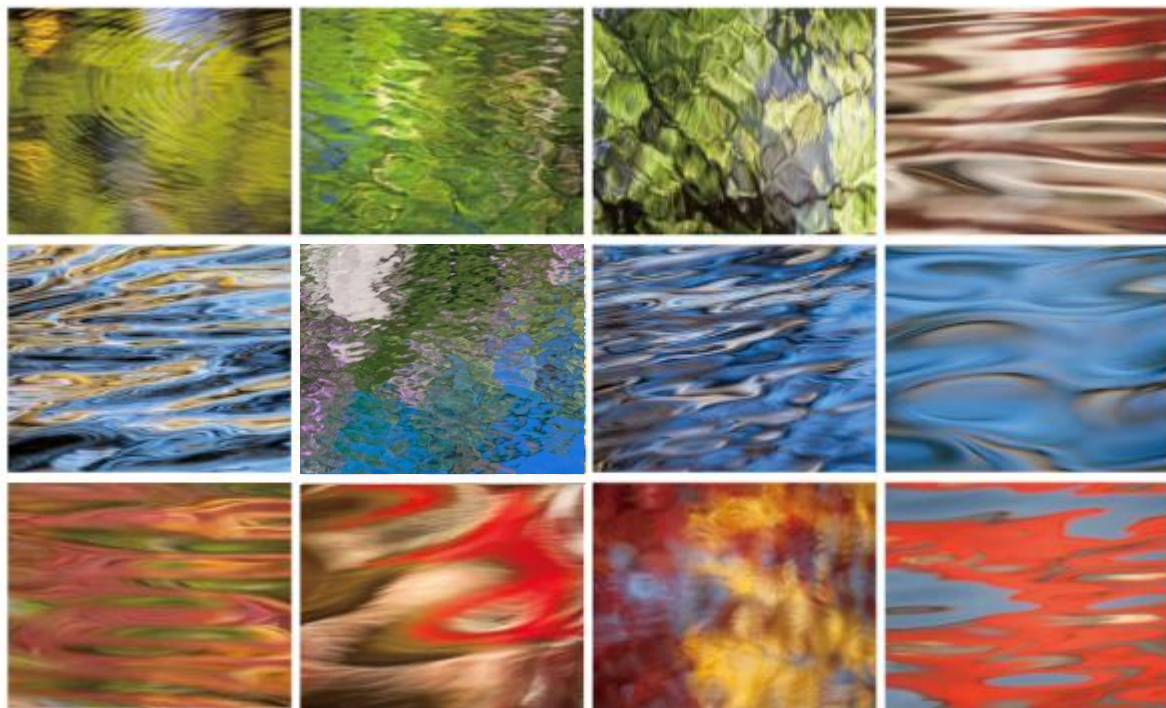
## 第五楽章 ゆらぎ

水は周りの色彩を水面に乗せ、風に揺らいで刻一刻、形を変える。  
一瞬たりとも同じ形は現れない。その一瞬をすくい上げ、心に留めたい。



水面は自然だけでなく、人工物も受け止める。  
朝の工場地帯は人も車も少なく、プラントは昇つてきた太陽で清明に輝いている。  
建物から運河にこぼれ落ちた色と形はゆらゆらと優しく揺れ、まるで何かをささやき合っているよう。

「Yuragi - 0701112626」



## 第六楽章 かたわら(傍ら)

「美」は遠く手の届かないところにあるのではない。  
私たちのすぐ傍らにいくらだってある。  
少し歩を休め見つめてみれば、  
そこに「美」は姿を現す。



「飛彩」

## ■遠藤湖舟(えんどう・こしゅう) プロフィール

1954年長野県生まれ。幼少時より豊かな自然に囲まれて過ごし中学時代より天体写真を撮り始める。天体への興味は尽きず、高校(長野県松本深志高等学校)では、天体観測などを行う地学会と写真部の両方に所属。早稲田大学理工学部応用化学科を卒業、企業に務めた後、写真家に転向する。アートシーン、人物、風景、天体写真など幅広い撮影を手掛ける一方、デザイン、コピーライトなど総合的なアート表現を行う。1983年、撮影に約3年を要した美術年鑑社の日本画家川合玉堂作品集を手掛ける。2004年には千葉県で撮影したブラッドフィールド彗星の写真が話題となり海外誌に掲載される。2006年より本格的に個展を開催し、これまでにない写真と音楽のコラボレーションによる空間表現を展開している。2014年、葉山文化園での個展『「そこにある美」立ち止まり、見つめて』では写真を超える表現や、独自の世界観の作品が人々に深い印象を残した。代表作『宇宙からの贈りもの』に日本画家の平山郁夫氏から、「美は、すぐそばにあることを、この写真集は語りかけてきます。時を超えた“美”が、そこにあります」という推薦文が寄せられている。



### 【個展】

- 2006年 『Photomelos 光の旋律Ⅰ』(アプリコホール 東京)
- 『Photomelos 光の旋律Ⅱ』(SKホール 東京)
- 2007年 『Photomelos 光の旋律Ⅲ』(アプリコホール 東京)
- 『宇宙の星、地球という星』(新宿野村ビル 東京)
- 『Photomelos 光の旋律Ⅳ』(松本市民芸術館 松本)
- 『遠藤湖舟写真展』(八十二銀行ギャラリー 松本)
- 2008年 『Fusion field』(のざわギャラリー 京都)
- オーケストラとのコラボ『宇宙からの贈りもの』(代々木オリンピックセンターホール 東京)
- 2009年 オーケストラとのコラボ『宇宙からの贈りもの』(代々木オリンピックセンターホール 東京)
- 2014年 葉山芸術祭参加企画 遠藤湖舟写真展「そこにある美」立ち止まり、見つめて(葉山文化園/神奈川)

### - 今後の予定 -

- 2015年 遠藤湖舟写真展『Victor Hasselbladへのオマージュ』  
(3月25日(水)~4月30日(木)/ハッセルブラッド・ジャパン・ギャラリー)

### 【出版】

- 2007年 『宇宙からの贈りもの』(講談社刊)
- 2010年 かがくのとも10月号『ひるまのおつきさま』(福音館書店刊)

## ■元女子モーグル日本代表 上村愛子(うえむら・あいこ) プロフィール

高校3年生で出場した1998年長野オリンピックを皮切りに、確実に進化を遂げ、日本を代表するスキーマーに成長する。2003-2004シーズンには、念願の世界カップ初優勝を達成。

2006年トリノオリンピックでは惜しくも5位入賞にとどまる。

膝の怪我からの復帰をかけた2007-2008シーズン、怒涛のW杯5連勝で日本モーグル界初となる種目別年間優勝を達成。念願のクリスタルトロフィーと、世界No.1の称号を手にする。2008-2009シーズンの世界選手権大会(猪苗代)においてもシングルレース、デュアルレースの二冠を達成した。

2009年、アルペンスキーマーの皆川賢太郎と入籍。2010年バンクーバーオリンピックでは4位という結果に終わり、メダルには届かず。その後、1年間の休養を経て、2011-2012シーズンに競技復帰。2季ぶりに出場した世界カップ(苗場大会)のデュアルでは、準優勝を飾り、存在感を示す。5度目の出場となった2014年ソチオリンピックでは、4位入賞でメダル獲得は叶わなかったが、5大会連続入賞は快挙。滑り終わったあとの「すがすがしい気持ち」という言葉と笑顔が感動を呼んだ。2014年に現役引退を表明し、今後の活躍が期待される。

